

二〇二四年 一月にはづ短歌会 「第百四十五回」

会記 森田幸子

令和六年一月十三日（土）大阪本苑にて開催

指導 浅田弘子先生

参加者 十四名、出席者十名 詠草二十八首

突然の夫の涙に戸惑ひぬテレビに流るる昭和歌謡に……………島村直子

万葉集に詠まれし歌に曲を付けソプラノに聞くミニコンサート……………中野真由美

守護ありて神のまにまに奉納す霊界物語「鯉の網引き」……………神門明子

寒き朝裸木となりし生垣に雀ら跳ねてしきりに鳴きあふ……………松本和子

食卓の横にリハビリの道具揃へ夫はたびたび右ゆび動かす……………浅田弘子

歌の友のみ葬り終へて冬木々に八手の花咲く城址をゆく……………森田幸子

はにかみて百まで生きたしと言ふ翁に「長生きしてね」と吾は声かく……………高枝悦美

トランプを本をカルタを終活し空きたる棚に胸の詰まりぬ……………増井さえ子

突然の大きな地震にテレビより津波がくるといふ元日の夕べ……………宇佐美賢治

南天の朱実啄むモズ来るらし水甕の辺り濡れし跡あり……………奈良典子

家屋流され余震の続く能登半島いくたびも聞き胸の痛みぬ……………宇佐美日出子

元日の能登の地震に友の家倒壊となり神前に祈る……………久井照子

阪神大震災に自衛隊の風呂すすめられ冷えし身も心も解れてゆきき……………田中文字

学生の日以後藤紀代美氏に学びしエスペラントわが人生の柱となりぬ……………加賀見明男